

三重県鈴鹿市

基本情報

- 気候 太平洋岸式
- 土質 灰色低地土
- 従事人数 3人(通年雇用)
- 臨時雇用
1,000人日(通年雇用含)
- 飼料用米の作付開始: H25年度

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	25ha	20a
飼料用米(移植)	7.8ha	20a
小麦	70ha	—
大豆	56ha	—
作業受託	延67.5ha	—
水稻育苗	10,000箱	—

経営方針

・借地による規模拡大を行いつつ、適切な機械導入や雇用により水稻、小麦、大豆生産を中心とした効率的な経営を実施

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料
 - ① 稲・小麦・大豆を中心に2年3作の体系で作付
 - ② 地元養鶏農家の乾燥鶏糞や大量に出る粃殻を鶏糞と混和し腐熟化させた堆肥をマニアスプレッダで小麦作前のほ場に施用
 - ③ 地力を低下させずに、大豆作後の水稻作において基肥の施用量を50%以上削減

〔 上記の取組の留意点
小麦作では品種により施肥量を調整する必要あり。 〕

導入効果

- 施肥
肥料費 ▲約5割
(技術導入前との比較)

支援体制

- ・JA等の生産部会や先進農業者が会員となっている組織に加入し、情報交換・技術交流、先進地視察等を実施
- ・市、県等の支援により農業機械・施設導入の際の補助、融資事業を活用
- ・普及センター等の指導による栽培技術の向上

課題・今後の目標

- ・米価が下がる中、経営改善や生産コスト削減に有効であると判断される技術は積極的に導入を検討する
- ・法人化し、後継者・従業員が安心して働ける農業経営を目指す